

平成28年度行政評価 施策評価シート (平成27年度実績)
 施策名 青少年の健全育成

施策コード 020203

1. 施策の担当	
主管課	教育部 青少年課
関係課	

2. 総合計画における位置づけ				
総合計画	政策	第2章 歴史・文化を大切に、ひとを豊かに育むまちづくり(教育・文化)	節	第2節 生涯学習・スポーツ
	施策	青少年の健全育成		

基本方針

- ・市内の青少年健全育成団体の自主的活動を支援します。
- ・地域と連携し、多様な青少年活動に対応できる人材の育成に努めます。
- ・各施設での青少年の居場所づくりを推進します。

現況と課題

- ・青少年健全育成団体の自主的活動は活発であり、地域を越えた交流事業も行われています。
- ・地域に密着した青少年を指導するため、さらに地域全体で青少年を支える環境づくりの支援が求められています。
- ・青少年の居場所となる各施設を活用している実績があります。稲倉青少年野外活動センターについては、指定管理者制度の導入、民間の能力を活用し、さらなる利用促進が期待されています。

施策目標

対象(誰を、何を、どこを)
 青少年及び青少年と関わりのあるすべての市民

意図(どのような状態にしたいのか)

- ・家庭では、親が子どもとコミュニケーションを図りながら学び合い、地域においては、大人が意識して子どもたちと関わるような状態をめざし、青少年が健やかに育つ環境づくりを進めます。
- ・「地域の子どもは地域で育てる」環境を作ります。
- ・市内の青少年健全育成団体の自主的活動の充実をめざします。

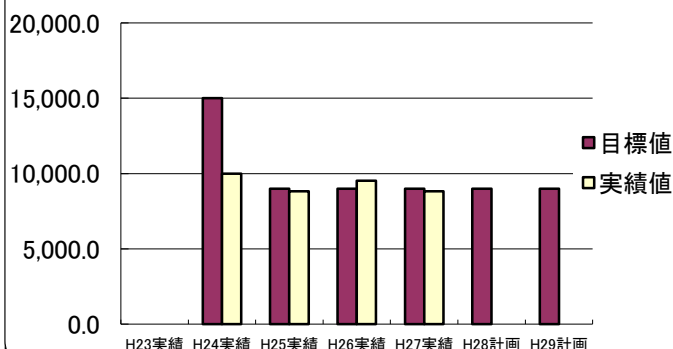
3. 市民ニーズ							
	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
満足度(偏差値)		52.6					
重要度(偏差値)		53.1					

4. 施策にかかるコスト								
	単位	H26決算	H27決算					
コストの内訳	人件費	千円	59,452	64,048				
	事業費		20,533	21,051				
	フルコスト		79,985	85,099				
財源内訳	国庫支出金	千円	0	0				
	府支出金		957	961				
	市債		0	0				
	その他		394	333				
	一般財源1(=フルコスト-特定財源)		78,634	83,805				
	一般財源2(=直接事業費-特定財源)		19,182	19,757				

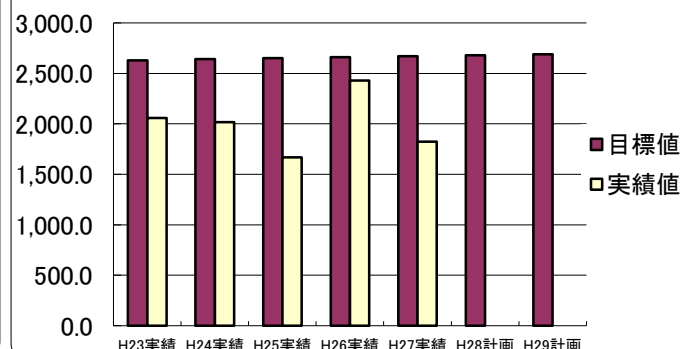
5. 施策の成果指標

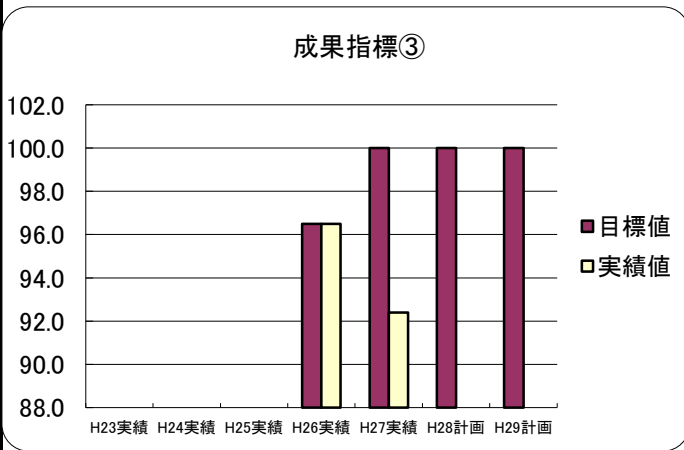
① 成果指標 1 青少年センター年間利用者数							
項目	H23実績	H24実績	H25実績	H26実績	H27実績	H28計画	H29計画
目標値		15,000.0	9,000.0	9,000.0	9,000.0	9,000.0	9,000.0
実績値		9,982.0	8,824.0	9,519.0	8,821.0		
達成度		66.55	98.04	105.77	98.01		
指標設定の根拠		目指そう値の設定根拠		目標達成・未達成の理由・背景			
この数が増えているかを把握することで、「青少年の居場所づくり」の場として、利用状況や利用者ニーズを把握できます。		H24 5年間で年間利用者が3%程度の増加を目標値として設定した。H25 施設移転し延床面積1/3となった。デｲｰﾋﾞｽ事業に影響大きく出ている。(H24 4,112人 H25 3,222人 △890人) によって、移転前の実績値9,982人から890人を減した約9,000人に、めざそう値を変更する。		前年度からの利用減(698人)は小学校の集団下校等の都合に伴い、一部の講座の開催日・時間帯を変更したことが大きく影響している。それ以外の利用については前年度とほぼ同じ実績。目標達成に向けて、引き続きこどもの居場所づくりとして事業展開を要する。			
② 成果指標 2 稲倉青少年野外活動センター年間利用者数							
項目	H23実績	H24実績	H25実績	H26実績	H27実績	H28計画	H29計画
目標値	2,630.0	2,640.0	2,650.0	2,660.0	2,670.0	2,680.0	2,690.0
実績値	2,057.0	2,018.0	1,667.0	2,430.0	1,822.0		
達成度	78.21	76.44	62.91	91.35	68.24		
指標設定の根拠		目指そう値の設定根拠		目標達成・未達成の理由・背景			
この数が増えているかを把握することで、子どもたちの自然体験を推進する場として、利用状況や利用者ニーズを把握できます。		5年間で年間利用者が3%程度の増加を目標値として設定した結果。		利用減(10団体、608人減)となったが、日帰り・宿泊の利用形態別で見た場合、日帰りの2割増(159人)に対し、宿泊が4割以上減(764人)と、利用減の要因となっている。市内・市外の利用者別で見た場合、市外利用者が微減(71人)に対し、市内利用者が537人減となっている。利用状況の分析を踏まえた指定管理者の様々なアイデアの提案で、より有効的な施設の活用が見込まれる。			
③ 成果指標 3 稲倉青少年野外活動センター満足度							
項目	H23実績	H24実績	H25実績	H26実績	H27実績	H28計画	H29計画
目標値				96.5	100.0	100.0	100.0
実績値				96.5	92.4		
達成度				100.0	92.4		
指標設定の根拠		目指そう値の設定根拠		目標達成・未達成の理由・背景			
利用者の満足度を把握できます。指定管理者は、5段階評価で満足度調査をしており、普通評価以上(大変満足、やや満足、普通)の合計を調査人数で割り、満足度を計算しています。		利用環境の充実を目指し、100を目標値とした。		満足度は若干下がったものの、一定の水準は維持している。内容別では、他の項目と比較して施設とスタッフの項目が低かったため、スタッフの対応について改善を指示した。それにより、所長及び担当者が変更された。			

成果指標①



成果指標②





6. 施策の事後評価			
評価段階	判定項目	評価点	評価理由、今後の方向性等
	一次評価 (担当課による評価)	施策の成果レベル (過去の推移、周辺市との比較なども含む)	(4点中) 2
施策に対する市民ニーズ		(3点中) 2	青少年の健全育成施策は社会的に要望の強い施策である。
施策を取り巻く状況 (法令等の動向、国・府の政策の動向、社会潮流など)		(3点中) 2	青少年健全育成施策は、社会的に大変重要な施策であり必要不可欠であるとともに、昨今の青少年を取り巻く状況を考えると今後重点事業である。
合計点		(10点中) 6点	
総合評価		C	人的・経費的に厳しい中、創意工夫により初期の目標値を目指し、効果が見いだされた。
二次評価 (政策推進課・行財政管理課による評価)		C	引き続き目標値の達成に努めること。
三次評価 (理事者による評価)		C	引き続き目標値の達成に努めること。 施策をより有効に評価できる新たな指標の追加の検討が必要である。

7. 施策を構成する事務事業							
	予算コード	事務事業名	H27年度決算額			H28年度予算	一次評価
			人件費	事業費	一般財源		
1	01058800	青少年健全育成事業	16,072	2,551	2,551	2,600	B
2	01062000	成人式事業	5,235	891	891	924	B
3	01062100	青少年指導員事業	4,285	3,384	3,384	2,760	B
4	01062200	ジュニアリーダー育成事業	4,382	223	169	370	B
5	01063600	青少年センター運営事業	15,137	2,388	2,379	2,407	B
6	01063700	青少年センター施設管理事業	15,952	2,233	1,963	2,670	B
7	01064200	稲倉青少年野外活動センター管理運営事業	852	7,252	7,252	15,000	B
8	01080770	おおさか元気広場推進事業	2,133	2,129	1,168	3,428	A
合計			64,048	21,051	19,757	30,159	